

2020年度 総合演習Ⅰ・Ⅱ シラバス

経営学部 地域ビジネス学科
国際ビジネス学科

総合演習Ⅰ・Ⅱシラバス 目次

教員名	テーマ	ページ
伊藤恵美子	私が選んだ今週のニュース	… 1
高木靖彦	情報発信を考える ―web ページを中心として―	… 2
手嶋慎介	「資格取得とプロジェクトへの挑戦」	… 3
宮城エステバン	WEB 技術・データ分析・IT セキュリティーの研究 (文系エンジニア入門)	… 4
今瀬政司	人を大切にする経営 ～ホワイト企業の経営分析と 見つけ方～	… 5
寺島雅隆	創業者の経営的選択（決断）を分析・評価	… 6
宮本佳範	ツアー企画と国際交流（多文化共生）	… 7
吉村美路	社会の中のコミュニケーション、個人の性格特性と キャリア	… 8
谷口正博	クリエイティブ思考によるステキ実装社会の研究	… 9
佐々木裕美	自分に挑戦しよう！	… 10
竹越美奈子	異文化研究：韓国	… 11
チャン ティ ト ウイエット ニュン	ASEAN 諸国の経済・社会・文化について	… 12

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
伊藤恵美子			
テーマ			
私が選んだ今週のニュース			
授業の目的と概要			
<p>このゼミは、大学生として知っておきたい現代社会（日本だけでなく国際社会）に関する知識を豊かにするとともに、その背景についても理解を深めることを目的とします。</p> <p>学生は新聞を読んで「面白い!」と思ったニュースを「私が選んだ今週のニュース」として選び、ニュースの背景について考え、クラスでプレゼンテーションを行います。発表を聞いた学生は全員、発表者に質問して意見を必ず述べます。発表したニュースは、最終的にレポートにまとめて提出します。</p> <p>この過程で、情報収集の能力、口頭表現・文章表現の能力を養います。</p>			
授業の到達目標			
<p>必要な情報が収集できるようになる。</p> <p>情報の信頼性が判断できるようになる。</p> <p>現代社会に関する理解が深まる。</p> <p>考えたことを発表し、文章にまとめることができるようになる。</p> <p>プレゼンテーションを傾聴できるようになる。</p>			
事前・事後学習			
新聞を読んで「私が選んだ今週のニュース」を切り抜き、その背景を考えること。			
成績評価基準・成績評価方法			
<p>発表者として、ニュースとその背景を説明できるか。</p> <p>聴衆として、発表を傾聴する責任と姿勢に関心が払えるか。</p> <p>発表：30%、レポート：40%、授業への参加貢献度：30%</p>			
テキスト・参考図書			
<p>教科書は使用しない。</p> <p>適宜、印刷物を配布する。</p>			
その他(演習の運営等)			
<p>現代社会への理解を深めるために、授業で企業や博物館等を訪問する。</p> <p>視野を広げたいと思い、積極的に参加しようとする学生を歓迎する。</p> <p>前期「総合演習 I」は、後期「総合演習 II」に継続し発展させる。</p>			
研究室在室日時			
1月 7日 2限目	1月 9日 2限目	1月 9日 4限目	1月 10日 4限目
1月 14日 3限目			

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
高木靖彦			
テーマ			
情報発信を考える –webページを中心として–			
授業の目的と概要			
<p>このところ東邦プロジェクトをはじめとする学生主体の活動で多くの成果を出せるようになってきた。また、クラブの中には毎年のように全国大会に出場したり、世界的なイベントで活躍するものも出ている。しかし、それらの活動の広報・情報発信に関しては、必ずしも十分とは言えない状態である。現代社会においては、広報・情報発信は活動そのものよりも重要な場合もあり、学生の活動でも同様である。これらの活動においては、広報・情報発信も学生主体に行う必要がある。この演習では、自ら情報発信を行ううえで必要な事柄を考えながら、自分のページを作っていく。ただし、web記述言語であるhtmlの文法などを理解することが目的ではないので、webオーサリングツール、または、CMS (コンテンツ・マネージング・システム) を使って作っていく。</p> <p>具体的には、前期は、基本的な知識・技能を身につけるとともに、身近なテーマを決めて個人またはグループでページを作ってみる。後期は、大学祭等のページを作ることを中心に進めていく予定でいる。</p>			
授業の到達目標			
マルチメディアを含めたページを作れるようになること。			
事前・事後学習			
作成するページに使えそうな素材を常に探し、撮影などしておく。			
成績評価基準・成績評価方法			
作られたページ等が、自分たちの活動を部外者に対して十分にアピールするものになっているか。			
テキスト・参考図書			
使わない			
その他(演習の運営等)			
研究室在室日時			
1月7日4 限目	1月8日2 限目	1月8日4 限目	1月10日4限目

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
手嶋慎介			
テーマ			
「資格取得とプロジェクトへの挑戦」			
授業の目的と概要			
<p>【プロジェクト】※共同研究としてプロジェクト（課題発見・解決型学習）に挑戦します！ プロジェクトのテーマは未定ですが、2019年度は(株)マイナビ『キャリアインカレ』などのビジネスコンテストに挑戦しました。過去には、地域・産学連携としてSMBCコンシューマーファイナンス(株)の協力により、相山女学園大学とのゼミ交流（プレゼンテーション）や、(株)丸越「漬物神社ブランディングプロジェクト」に参画しました。ボランティア活動、大学祭などのイベントへの参加もプロジェクトの一つとして考えてください。</p> <p>【資格取得など各自の研究】※個人研究として自分で設定した目標に挑戦します！ 個人研究として、キャリア形成の各段階において求められる能力について、テキストや最新情報をもとに考えます。また、経営学部での専門の学びや卒業後の進路などについて考え、プレゼンテーションをします。具体的には、専門を学ぶ上で役に立つ基礎的な資格取得を目標にしてください。</p>			
授業の到達目標			
<p>「わたしは“これ”をがんばって卒業する！」</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業のための単位を取るだけでなく“これ”といえる何かを1年間のゼミ活動を通じて獲得すること。 (※ 実は2年生までの活動が、3年生から始まる就職活動での自己PRポイントになったりします) ゼミ活動を通じ自分らしさを探求・発揮すること。 →これらのチェックポイントは以下の通りです。 自分にとって挑戦的な課題に取り組む姿勢を發揮できたか（挑戦する力・ストレッチ） 自分の行動や経験を内省し、振り返ることができたか（振り返る力・リフレクション） やりがいや関心を持って活動に臨み達成感や成長感を味わうことができたか（楽しむ力・エンジョイメント） 			
事前・事後学習			
<ul style="list-style-type: none"> ゼミの共同研究／プロジェクトにおける自らの役割をこなすこと。 自ら選んだテーマやテキストから分担された章に関連した情報収集を行うこと。 自分の行動や経験を内省し、振り返ること。 →以上について、それぞれ事前・事後の合計で90分程度 			
成績評価基準・成績評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ゼミとしてのプロジェクト遂行に貢献することができたか。 3・4年生での卒業論文／卒業レポートの基礎となる準備をすることができたか。 ゼミの共同研究／プロジェクトにおける自らの役割をこなすことができたか。 自ら選んだテーマやテキストから分担された章に関連して、レポートをまとめ発表できたか。 			
テキスト・参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> 吉沢正広編／手嶋慎介 他著（2018）『実学 企業とマネジメント』学文社 （財）職業教育・キャリア教育財団監修（2019）『2020年版 ビジネス能力検定公式ジョブパス2級・3級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター 岡野絹枝編／手嶋慎介 他著（2019）『よくわかる社会人の基礎知識』ぎょうせい 			
その他(演習の運営等)			
<p>地域・産学連携のプロジェクトをゼミ活動の中核と考えています。4年の手嶋ゼミ生やプロジェクト科目、他大学とのコラボ企画を行う可能性があります。</p> <p>各自の目標に合わせて可能な限り活動に参加し、すべての取り組み内容をプレゼンテーション資料としてまとめていくことで、就職活動でPRできるようなポートフォリオをつくりましょう！</p>			
研究室在室日時			
1月 7日 3限目	1月 8日 5限目	1月 10日 4限目	1月 14日 3限目

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
宮城エステバン			
テーマ			
WEB技術・データ分析・ITセキュリティーの研究 (文系エンジニア入門)			
授業の目的と概要			
文系エンジニアになりましょう！地域活性化の為、ゼロからWebSite・SNSを立ち上げるプロジェクト。プロジェクトマネジメント・ビジネス分析・Webサーバーの技術・構築・セキュリティー・データ分析・データスクレイピング・ネット広告・データの視覚化・ニューラル機械翻訳を勉強します。			
授業の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ WWW・SNSの仕組みを理解して説明ができる。 ・ データー分析を理解して説明ができる。 ・ ビジネス分析を理解して説明ができる。 ・ Webのセキュリティーを理解して説明ができる。 			
事前・事後学習			
事前・事後学習の時間は毎週5時間程度			
事前に講義で学習するテーマおよび内容を確認しておく。事後は、配布資料や講義で学んだ内容を振り返り復習をしておく。各ソフトウェアを自習する。			
成績評価基準・成績評価方法			
* 授業への参加態度（積極性、取組む姿勢、協調性、出席率）50%			
* 課題・宿題 50%			
テキスト・参考図書			
配布資料を準備します			
その他(演習の運営等)			
このゼミに向いていない学生			
* 学校以外で忙しく、欠席する（2回以上）			
* ITに興味がない			
* 機械翻訳（英→日）が利用できない			
* パソコンが苦手			
* 課題の提出が遅れる			
研究室在室日時			
1月8日3・5限目	1月9日4・5限目	1月10日4・5限目	1月14日3・4限目
1月15日 3限目	1月15日 3限目		

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
今瀬政司			
テーマ			
人を大切にする経営 ～ホワイト企業の経営分析と見つけ方～			
授業の目的と概要			
<p>この演習では、「人を大切にして成長し続けるホワイト企業」について、その経営ノウハウを学びます。ホワイト企業とは、社員やその家族の幸せを第一に考え、顧客や下請け企業や地域社会のことを大切にして経営しながら、長期にわたり好業績を上げ続けている企業のことです。昨今、ニュース等ではブラック企業の情報が溢れていますが、世の中捨てたものではなく、ホワイト企業がたくさんあります。</p> <p>具体的な学習内容は、①「日本でいちばん大切にしたい会社」と評価される企業の事例学習、②企業の経営を数量データで分析して実態を見抜く事例学習、③企業の現場を訪問して事例研究を行う学外学習、④実践的なビジネススキル（表現する力、受け止める力、協働する力等）の学習などです。</p>			
授業の到達目標			
「人を大切にする経営」の知識・ノウハウ、ホワイト企業の経営分析と見つけ方を理解して、就職活動や就労の実践で活かせる能力を身につけることを目標とします。			
事前・事後学習			
課題図書などを事前・事後に読んで理解するとともに、課題をきちんと行って下さい。自発的・自律的に学習して、積極的に教員に質問・相談等をして下さい。			
成績評価基準・成績評価方法			
演習への参加姿勢、課題の取組み成果、知識・ノウハウの学びなどの達成度を成績評価基準として、それらを総合的に評価して成績をつけます。			
テキスト・参考図書			
演習時に必要に応じて指定します。事例学習として、「人を大切にする経営学会」資料、「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞や書籍（坂本光司著）、「会社四季報」など参考してください。			
その他(演習の運営等)			
<p>プレゼンテーションやディスカッション、グループワークの機会も取り入れます。様々な時事問題や雑学、受講者の問題意識なども積極的に取り上げます。進路・就職活動や学内外活動等での個別相談にも乗ります。学習・取組みの成果は、今瀬政司研究室ホームページで情報発信します。</p> <p>過年度の演習の成果事例として、今瀬政司研究室ホームページをご参照下さい。 http://sicnpo.jp/imase-aichi_toho/</p>			
研究室在室日時			
1月7日 昼休み・3限目	1月8日 昼休み・3限目	1月9日 4限目	1月10日 5限目
1月14日 昼休み・3限目	1月15日 4限目		

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
寺島雅隆			
テーマ			
創業者の経営的選択（決断）を分析・評価			
授業の目的と概要			
<p>企業を起こすのが創業（起業）であり、この演習では創業者に焦点を当て、その生き方を知ると共に、経営的選択（決断）を分析・評価します。創業者がなぜその選択（決断）に至ったのか、その理由や社会的背景を分析し、自分が経営者であればと主体的に発想し、その仮説についてディスカッションすることがこの演習の目的です。創業者の経営的選択（決断）に対し、なぜ成功したのか、もしくはなぜ失敗したのかを完全に証明することは困難だとしても、自らの見解を筋道立てて述べるができるようにしていきましょう。</p>			
授業の到達目標			
<p>創業者を深く理解できる。 経営的選択（決断）の理由や背景を認識できる。 経営的選択（決断）への自らのオプションを提示できる。 そのオプションの是非をディスカッションできる。 創業者への分析・評価を論理的におこなえる。</p>			
事前・事後学習			
<p>事前には、授業のテーマについて調べ、知識を得ると共に自らの見解を論じられるようにしてください。事後には、授業内容を整理し、疑問を解消し、多様な意見の中から最初の自らの見解がどのように変容したかを分析して下さい。</p>			
成績評価基準・成績評価方法			
<p>毎回レポートがあり、それをABCで評価し、TOPOSに反映させます。加えて、半期に一度レポート課題があります。発表は半期に2回以上あり、評価します。</p>			
テキスト・参考図書			
<p>テキストはありませんが、参考文献は、ピーター・ドラッカー『イノベーションと起業家精神（上）その原理と方法』ダイヤモンド社です。</p>			
その他（演習の運営等）			
<p>演習形式 レジュメを用意してプレゼンテーションをし、それを元に全員でディスカッションをおこないます。創業者に関するフィールドワークも考えます。</p>			
研究室在室日時			
1月7日	3限目	1月10日	3・4限目
		1月14日	3限目
		1月15日	2・3限目

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
宮本佳範			
テーマ			
ツアー企画と国際交流（多文化共生）			
授業の目的と概要			
<p>本ゼミでは、ツアー企画や地域における多文化共生の問題等について考えることを通して、問題解決型の思考を身につけることを目的としています。</p> <p>前期に、ツアー企画を行います。具体的には毎年応募している旅行企画コンテストへチャレンジする予定です。ただの名所巡りではない斬新なツアー企画をしてもらいます。後期は、国際交流・多文化共生について考えます。現在名古屋には観光や仕事、学業のために多くの外国人が訪れています。外国人と日本人がうまく交流し、共存する方法を考えることは、地域にとっての大きな課題です。そういった地域の問題への視点を身に着けましょう。なお、学生からの積極的な提案や外部と連携する機会があれば優先的に取り組みます。観光や地域の問題を考える仕事をを目指す人を念頭においていますが、観光や国際交流などに興味があれば、誰でもウェルカムです。積極的に楽しく取り組みましょう。</p>			
授業の到達目標			
他者と協力して作業に取り組み、企画をまとめ、発表することができる。 積極的に考え、計画的に行動することができる。			
事前・事後学習			
日常的に観光や地域の問題などに関するニュース等をチェックして、最新の動向を知る。			
成績評価基準・成績評価方法			
グループ作業への貢献度、積極性、発想の豊かさ、作成した企画の完成度などから総合的に評価します。			
テキスト・参考図書			
特になし			
その他(演習の運営等)			
学生主体のグループワーク中心で行います。外部者と関わる可能性もあるので、責任感と協調性のある意欲的な学生の参加を期待しています。			
研究室在室日時			
1月7日 2～5限目	1月8日 3限目	1月9日 2・4限目	1月10日 5限目
1月14日 2～5限目	1月15日 3限目		

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
吉村美路			
テーマ			
社会の中のコミュニケーション、個人の性格特性とキャリア			
授業の目的と概要			
<p>【ゼミの概要/キーワード：組織、キャリア、心理、コミュニケーション】 なぜ同じ商品なのに、売れるセールスマンと売れないセールスマンがいるのでしょうか。チームを組んで活動したときのパフォーマンスが、個人のパフォーマンスの総数を超えたり下回るのはなぜでしょう。遅刻や離職など、ネガティブな行動はなぜ生まれるのでしょうか。</p> <p>このゼミでは、一年を通して社会やビジネス現場において発生する、人間の心理やコミュニケーションについて考えていきます。前期では特に、自己分析やビジネスマンの事例を用いながら、学生同士で考えてもらうアクティブラーニングを取り入れた形式をとっています。</p> <p>ゼミでは、社会との関わり方について考えて頂くために、前期・後期ともに定期的に地域での活動を取り入れます(農業体験・地域貢献活動等)。学生はよく考えてから受講してください。</p>			
授業の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の特性について理解し、未来のキャリアをイメージできる。 ・メンバーの特性について理解し、サポートすることができる。 ・社会の中で、自身がどのように活躍できるかを思い描くことができる。 ・地域活動を通して、社会の中のさまざまなつながりを実感する。 ・地域活動等を実際に体験し、自ら考え意見を伝えることができる。 ・地域×大学の連携により生み出せるものを発見し、自立して企画・運営ができる。 ・チームの一員として、自身の役目をきちんと果たすことができる。 ・自らの学び・気づきを、他者にわかりやすくまとめ、学会等外部機関で発表する。 			
事前・事後学習			
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の中での事例研究を振り返り、他者の考え方と自身の考え方を比較する。 ・実際の活動を通し、体験からどのような気づきを得られたのか文章で表現する。 ・興味のあるテーマや、授業と関連のあるテーマについて、ニュースや書籍などで情報を蓄積・アップデートするよう心掛ける。 			
成績評価基準・成績評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・自身のできることや得意な分野について理解し、生かすことができたか。 ・チームのメンバーの特性を理解し、積極的にサポートができたか。 ・自らの学び・気づきを、積極的に発言・発表できたか。 ・活動全般において、積極的に取り組んだか。 			
テキスト・参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本心理学会 (2015) 本当のかしこさとは何か 誠信書房 ・小野義生 (2013) リーダーシップ理論 日本実業出版社 ・ダニエル・ゴールマン (2002) EQリーダー 日本経済新聞社 <p>※その他、必要に応じて紹介します。</p>			
その他(演習の運営等)			
<ul style="list-style-type: none"> ・本ゼミは、実践による地域活動が定期的に入ります。 ・後期では、学生自ら地域活動を企画し、実行します。 ・成果は、文章にまとめ冊子にする、学会発表するなど、何らかの形で発信することをミッションとします。 			
研究室在室日時			
1月8日 2限目	1月8日 3限目	1月9日 2限目	1月9日 3限目
1月9日 4限目	1月10日 4限目	1月15日 2限目	1月15日 3限目

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名		
谷口正博		
テーマ		
クリエイティブ思考によるステキ実装社会の研究		
授業の目的と概要		
<p>この演習では人間が本能的に感じる「美」「感動」といったエモーショナルな情動、情感が、実社会においてどのように分布、配置され機能しているのかを調査研究し、その傾向と現状について考察を行います。</p> <p>そして、実際に多くの人に「ステキ」と感じるものはどのように作り上げることが可能なのか、その高度な専門性と特別なスキルに頼らない両極な手段を、思考方法から実作業を通して、プロジェクトとして企画を立案し実現までを体験します。</p>		
授業の到達目標		
調査研究というスキルを学問的な面からではなく、まずは個人の嗜好の延長として捉え、情報収集から情報編集の基礎へ、その後の情報発信スキルへと発展させるための基本を身につける。		
事前・事後学習		
日々の生活の中からクリエイティブ要素の考察を習慣付けし、エンターテインメント分野に関しても一消費者に留まらず、積極的にその構造や本質を好奇心を持って知ろうと心がけてください。		
成績評価基準・成績評価方法		
<p>興味関心を持つ分野に限らず、その魅力を言語化図像化し伝える事ができているか。</p> <p>自身の持つイメージを「企画」として発表する能力を習得できているか。</p> <p>調査分析レポート、企画書の提出などで総合的に評価する。</p>		
テキスト・参考図書		
<p>教員の提示する資料のみならず、受講生が相互に提供（発表）する各分野について自分なりの興味関心を見つけることで、それは教材となり得ます。</p> <p>具体的な資料は授業内で複数提示します。</p>		
その他(演習の運営等)		
現地調査、実地体験の可能性があります。		
研究室在室日時		
1月10日（金）11時～16時10分		

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
佐々木裕美			
テーマ			
自分に挑戦しよう！			
授業の目的と概要			
この授業では、4年間の大学生活をより実り多いものとするために、各学生が「挑戦」すると決めたことを1年間やり抜き、何らかの結果を出すことを目的に、「プロジェクト」として取り組みます。 資格試験への挑戦、語学習得への挑戦、生活態度改善への挑戦、家事への挑戦、留学への挑戦など、何でも構いません。一旦決めたら「挑戦」し続けて結果を出すために努力してください。			
授業の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を理解し、自分を活かすことのできる分野を見つける ・自分の強みを伸ばすための方法を知る ・「挑戦」することを通じて結果を得る 			
事前・事後学習			
自分の「課題」（挑戦）への取り組みは、自分で決める 生活の中に組み込んで挑戦を続ける			
成績評価基準・成績評価方法			
「挑戦」して「結果」を得るまでの過程を、準備・計画・実践を繰り返しながら上昇へのスパイラルとして段階的にまとめて発表する。			
テキスト・参考図書			
挑戦の内容により、相談して決める。			
その他(演習の運営等)			
私自身の専門分野はアメリカ文学研究、アメリカ地域研究（州と連邦）、異文化理解のため、最も対応できる挑戦は、TOEICや実用英語検定などの英語資格試験と、原書で読むアメリカ文学、国際交流です。			
研究室在室日時			
1月6日 3限目	1月8日 5限目	1月9日 4限目	1月10日 3・4限目

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名			
竹越美奈子			
テーマ			
異文化研究：韓国			
授業の目的と概要			
<p>異文化(韓国)について研究し、他文化を知って尊重するとともに、自国の文化についても理解を深めることです。</p> <p>1) テキスト『韓国の暮らしと文化を知るための70章』の輪読 2) 学生による発表 3) ゼミ発表会での発表 4) 名古屋の文化施設等の見学</p>			
授業の到達目標			
<p>1) テキストを丁寧に読む 2) テキストの内容を要約する 3) 調べたことをまとめて発表する 4) ゼミの他のメンバーを尊重し、協力する</p>			
事前・事後学習			
<p>1) 毎回授業の前に自分でテキストを読んで不明な点を調べる 2) 授業中疑問に思ったこと等を調べる</p>			
成績評価基準・成績評価方法			
1) ゼミでの貢献度 2) 発表 3) ゼミ発表会での発表、による			
テキスト・参考図書			
舘野哲 (たてのあきら) 編『韓国の暮らしと文化を知るための70章』 (明石書店)			
その他(演習の運営等)			
<p>異文化を理解することは、自分や自分の身近な文化を理解することでもあります。ゼミの中では他のメンバー、教員を尊重して仲良くやりましょう。それができる人なら誰でも大歓迎です。</p>			
研究室在室日時			
1月7日 昼休み	1月9日 昼休み	1月14日 昼休み	1月15日 昼休み

経営学部
2020年度 総合演習 I・II シラバス

担当者名		
チャン ティ トウイエト ニュン		
テーマ		
ASEAN諸国の経済・社会・文化について		
授業の目的と概要		
<p>この演習では、ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国の経済・社会・文化について考察する。下記の3つのパターンを想定し、感心のある国とテーマを自ら選び、報告・議論・体験の計画と実施を積極的に行う。</p> <p>1. ASEAN諸国のツアーガイドになってみよう。 日本人旅行客向けツアーガイドになり、ASEAN諸国の情勢を紹介する。 -各国の観光地、歴史、文化、宗教、経済、政治・社会情勢を紹介する。 -各国の文化体験を行う。 食文化体験（例：お茶・コーヒーの飲み比べ、料理の体験） 各国の映画、音楽、観光DVD、Youtube等の視聴 各国の展覧会、イベントの体験 -各国の観光ガイド資料作成（プレゼンテーション資料、動画作成等）</p> <p>2. 日本企業から派遣されるASEAN諸国駐在員になってみよう。 日本企業の本社から派遣されるASEAN諸国駐在人になり、自分のビジネス分野・担当領域について赴任国の情報を調べる。赴任前の準備、赴任後の活動を計画する。</p> <p>3. 東南アジア経済研究者になってみよう。 関心のある国と研究テーマを選び、報告レジメの作成、報告、議論を行う。 例えば以下の点などを中心に研究を行う。 ●現在のASEAN諸国の経済成長の実態と要因分析 ●日本企業のASEANへの進出 ●日本とASEANとの経済関係 等</p>		
授業の到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ●ASEAN各国情勢の理解 ●ASEAN経済現状と方向性の理解 ●日本とASEANとの関係の理解 		
事前・事後学習		
<p>特に関心のあるテーマについて文献やネット検索などで詳しく調べること。 各活動における諸課題に積極的に取り組むこと。</p>		
成績評価基準・成績評価方法		
<p>演習の活動全般への積極的な参加、レポート作成のための準備、レポート発表などで総合的に評価する。</p>		
テキスト・参考図書		
<p>授業の時点で相談して、中心となる教材を決定する。1年に1冊のテキストを読破する予定である。</p>		
その他(演習の運営等)		
<p>演習の報告会で1年間の成果を発表する。楽しく、そして真剣に取り組みましょう！</p>		
研究室在室日時		
1月9日（木）2・3限目		